



府中二中だより

令和 6 年度スローガン 「笑顔満開の学校」

令和 6 年度
10 月 22 日発行
令和 6 年度合唱リハ号
府中第二中学校
校長 成清敏治
電話 361-9302

合唱コンクールリハーサルを鑑賞して…

「合唱っていいな～」…これがリハーサルを見て（校長）の感想である。

10月18日（金）に、各学年でリハーサルが実施された。25日（金）に本番を迎える。一生懸命に朝と午後、練習をしている姿が印象的だ。でもクラスでいろいろな葛藤があるのも当然だし、音がとれない課題や揃わない課題、練習疲れもあり、少しきつい状況であることも各学級一緒だと思う。登山も頂上まで一気に登るのはきつい。休み休みしながら、体力を少し回復させながら、頂上を目指して頑張っていく。合唱も同じかもしれない。

1年生は初々しい。初めての合唱コンクールでもあるので、入退場から舞台での歌声、たくさんの観客が見ている状況での緊張、様々にクリアしていくことが求められる。さて、どこまで平常心で臨めるか…。

2年生はさすがに昨年経験しただけあって入退場も慣れている。声も男声パートが重厚な音を響かせている。ハーモニーもきれいに聞こえる。されど音量がもう少しあっても…とも思う。ぜひとも1年生に観客にあっと言わせる歌声を披露してほしい。委員会でも部活動でも二中の中心になった2年生。期待したい。

3年生のリハーサル…実は見ませんでした。当日までの楽しみにしたい。最後の大きなクラス行事である合唱コンクール。3年生は最優秀賞を目指すという喜びも大事だけれど、みんなで歌を歌える、合唱ができる喜びを感じて、次のステップ（進路選択）に堂々と、またみんなで進みゆく一歩を踏み出してほしい。

K組も歌と演奏で会場を盛り上げるために、練習に励んでいる。毎日、第2音楽室から音色が聞こえてくる。これも楽しみの1つだ。

10月25日、明星学苑の講堂から喜びが満開に溢れる合唱になるように…

（10月22日 校長より）

生徒の活躍（敬称略）

☆外部団体

○東京都中体連水泳学年別大会

50m平泳ぎ1位 4×50mメドレーリレー3位
ワナー恵来

○2024 産経ジュニア書道コンクール秀作、

第40回高円宮杯日本武道館書写書道大展览会特選
田中碧乃

○空手道大会 中学個人形優勝！ 少年団体形3位 一ツ松咲詠

○こどもたちのポスターアートギャラリー 第61回親と子の警察展

光が丘IMA「光の広場」に展示（11月16日・17日） 日高竹之輔



☆水泳部

○ファイナルマッチ

男子総合 221 点 3 位 女子総合 138 点 3 位
男子 800m 自由形 1 位 男子 100m 個人メドレー 4 位 戸塚珠貴
女子 100m バタフライ 1 位 女子 200m 平泳ぎ 2 位 岩瀬藍里
女子 200m 個人メドレー 2 位 古賀壱華
男子 200m 個人メドレー 2 位 中村優心
女子 100m 個人メドレー 3 位 女子 100m 平泳ぎ 4 位 原菜々美
女子 200m 平泳ぎ 4 位 女子 100m 平泳ぎ 5 位 高橋実紅
女子 200m 自由形 5 位 相田琴美
女子 200m 背泳ぎ 5 位 鈴木初子
女子 50m バタフライ 6 位 石井沙輝子
女子 100m 自由形 6 位 松尾理央
女子 4×50m フリーリレー 3 位 石井、原、古賀、松尾組
女子 4×100m フリーリレー 4 位 岩瀬、鈴木、高橋、相田組
男子 4×100m フリーリレー 4 位 中村、戸塚、平田、岩田組
女子 4×100m メドレーリレー 5 位 松尾、古賀、原、石井組

学校運営協議会の報告（10月18日開催）

1 学校と地域行事との関係性、ボランティア運営について

○平成31年1月25日の中教審答申において、「第4章 学校及び教師が担う業務の明確化・適正化」が整理された。その中で、基本的には学校以外が担うべき業務として、以下の4点が挙げられている。

- ①登下校に関する対応
- ②放課後から夜間などにおける見回り、生徒が補導された時の対応
- ③学校徴収金の徴収・管理
- ④地域ボランティアとの連絡調整

⇒業務の内容に応じ、教育委員会、保護者、地域ボランティア等が担うべき

○教員の働き方改革は喫緊の大きな課題であり、その整備は急務を要する。

今まで慣例的に行われてきた役割等を見直し、働き方の整理を行いたい。
放課後や土日の業務については、育児事情や介護事情等が増えた現在では、教職員のかなりの負担となっている。まずは②④から整理を行いたい。

2 PTA 組織の改革について

○来年度に向け、PTA から大きな改革案が出された。家庭を取り巻く環境が変化し、共働き世帯が増加した。今までと同じ組織体制では、円滑に運営できず、不満が生じることも懸念された。

○PTA の存在意義は、「子供たちの教育活動の充実」であり、「二中学生の応援団」を形成することである。そこで PTA 役員と学校で話し合いを進め、アンケートで会員に改革案の賛否を回答していただき、回答のほぼ8割以上が肯定であった。学校の要望として、「オトナの学び」を充実させたいとして、教育活動への経済的支援を依頼した。生徒が学ぶ場に大人も参加し、学びを深めてもらいたい(大人が子供と一緒に学ぶ機会が少ないので)。

運営協議会委員に御意見をいただき、提案については概ね肯定的な回答をいただいた。教員の働き方改革を進めていくためのもの、生徒との対話を重視した教育のための物理的確保、時代の変化に柔軟に対応する組織変革を学校側から提案している。来月のスクール・コミュニティ協議会で話題にする。